

**B 1**

複素数平面において、点1を中心とする半径 $\sqrt{2}$ の円を $C$ とする。次の問いに答えよ。

- (1) 点 $\alpha$ が円 $C$ と虚軸との交点であるとき、 $\alpha + \frac{1}{\alpha}$ を求めよ。
- (2) 円 $C$ 上の点 $z$ に対し、点 $-\frac{1}{z}$ も円 $C$ 上にあることを示せ。
- (3) 円 $C$ 上の点 $z$ に対し、 $w = z + \frac{1}{z}$ とする。複素数 $w, z$ は

$$|w - 2| = \frac{2}{|z|}$$

を満たすことを示せ。

- (4) 円 $C$ 上の点 $z$ に対し、(3)で定めた複素数 $w$ は

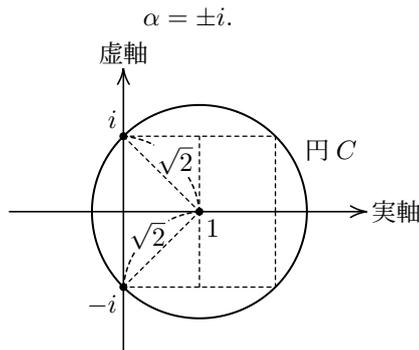
$$|w - 2||w + 2| = 4$$

を満たすことを示せ。

【2024 広島大学】

**解説**

- (1) 点 $\alpha$ は円 $C$ と虚軸との交点であり、図より、



このとき、 $\alpha^2 = -1$ であることに注意すると、

$$\alpha + \frac{1}{\alpha} = \frac{\alpha^2 + 1}{\alpha} = 0.$$

- (2) 点 $z$ が円 $C$ 上にあるとき、すなわち、 $|z - 1| = \sqrt{2}$ を満たすとき、点 $-\frac{1}{z}$ も円 $C$ 上にあること、すなわち、

$$\left| -\frac{1}{z} - 1 \right| = \sqrt{2} \text{ を満たすことを示せばよい。}$$

$$|z - 1| = \sqrt{2} \text{ より、}$$

$$\begin{aligned} |z - 1|^2 &= 2. \\ (z - 1)(\bar{z} - 1) &= 2. \\ z\bar{z} - z - \bar{z} + 1 &= 2. \\ z + \bar{z} + 1 &= z\bar{z}. \end{aligned} \quad \dots \textcircled{1}$$

このとき、

$$\begin{aligned} \left| -\frac{1}{z} - 1 \right|^2 &= \left| \frac{1+z}{z} \right|^2 = \frac{|z+1|^2}{|z|^2} \\ &= \frac{(z+1)(\bar{z}+1)}{z\bar{z}} = \frac{z\bar{z} + z + \bar{z} + 1}{z\bar{z}} \end{aligned}$$

であり、①から、

$$\left| -\frac{1}{z} - 1 \right|^2 = \frac{z\bar{z} + z\bar{z}}{z\bar{z}} = 2$$

が成り立ち、 $\left| -\frac{1}{z} - 1 \right| = \sqrt{2}$ の成立がわかるので、点 $-\frac{1}{z}$ も円 $C$ 上にある。 ■

- (3)  $w = z + \frac{1}{z}$ より、

$$|w - 2| = \left| z + \frac{1}{z} - 2 \right| = \left| \frac{z^2 - 2z + 1}{z} \right| = \frac{|z - 1|^2}{|z|}$$

であり、点 $z$ が円 $C$ 上にあるとき、すなわち、 $|z - 1| = \sqrt{2}$ を満たすとき、

$$|w - 2| = \frac{|z - 1|^2}{|z|} = \frac{(\sqrt{2})^2}{|z|} = \frac{2}{|z|}$$

が成り立つ。 ■

- (4)  $w = z + \frac{1}{z}$ より、

$$|w + 2| = \left| z + \frac{1}{z} + 2 \right| = \left| \frac{z^2 + 2z + 1}{z} \right| = \frac{|z + 1|^2}{|z|}$$

であり、点 $z$ が円 $C$ 上にあるとき、(2)より、

$$|z + 1|^2 = 2|z|^2$$

が成り立つことから、

$$|w + 2| = \frac{|z + 1|^2}{|z|} = \frac{2|z|^2}{|z|} = 2|z|$$

が成り立つ。これと(3)より、

$$|w - 2||w + 2| = \frac{2}{|z|} \times 2|z| = 4$$

が成り立つ。 ■

**参考**  $z$ から $w$ を対応させる変換はジュークフスキーJoukowski変換と呼ばれ(本編 p.137 参照)、これにより円 $C$ は2点 $\pm 2$ からの距離の積が一定である曲線、すなわち、レムニスケート(本編 p.70 参照)に移る。

**B 2**

各項が自然数である2つの数列 $\{a_n\}, \{b_n\}$ を等式

$$a_n + b_n\sqrt{5} = (2 + \sqrt{5})^n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

により定める。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) すべての自然数 $n$ について、

$$a_n - b_n\sqrt{5} = (2 - \sqrt{5})^n$$

が成り立つことを示せ。

- (2)  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{b_n}$ を求めよ。

【2024 香川大学】

解説

(1)  $a_1 = 2, b_1 = 1$  であり,

$$\begin{aligned} a_{n+1} + b_{n+1}\sqrt{5} &= (2 + \sqrt{5})^{n+1} \\ &= (2 + \sqrt{5})^n(2 + \sqrt{5}) \\ &= (a_n + b_n\sqrt{5})(2 + \sqrt{5}) \\ &= (2a_n + 5b_n) + (a_n + 2b_n)\sqrt{5}. \end{aligned}$$

ここで,  $a_n, b_n, a_{n+1}, b_{n+1}$  は自然数であるので,  
 $a_{n+1} = 2a_n + 5b_n, b_{n+1} = a_n + 2b_n$  ( $n = 1, 2, \dots$ )  
 が成り立つ. このことに注意して, すべての自然数  $n$   
 について,

$$a_n - b_n\sqrt{5} = (2 - \sqrt{5})^n \quad \dots (*)$$

が成り立つことを数学的帰納法によって示そう.

- $n = 1$  のとき,

$$a_1 - b_1\sqrt{5} = 2 - 1 \cdot \sqrt{5} = (2 - \sqrt{5})^1$$

より, (\*) は確かに成立している.

- $n = k$  のときの (\*) の成立を仮定すると,

$$\begin{aligned} (2 - \sqrt{5})^{k+1} &= (2 - \sqrt{5})^k(2 - \sqrt{5}) \\ &= (a_k - b_k\sqrt{5})(2 - \sqrt{5}) \\ &= (2a_k + 5b_k) - (a_k + 2b_k)\sqrt{5} \\ &= a_{k+1} - b_{k+1}\sqrt{5} \end{aligned}$$

となり,  $n = k + 1$  のときにも (\*) は成り立つ.

ゆえに, すべての自然数  $n$  に対して (\*) が成り立つことが示された. ■

(2)

$$\begin{cases} a_n + b_n\sqrt{5} = (2 + \sqrt{5})^n, \\ a_n - b_n\sqrt{5} = (2 - \sqrt{5})^n \end{cases}$$

により,

$$\begin{cases} a_n = \frac{1}{2} \{ (2 + \sqrt{5})^n + (2 - \sqrt{5})^n \}, \\ b_n = \frac{1}{2\sqrt{5}} \{ (2 + \sqrt{5})^n - (2 - \sqrt{5})^n \} \end{cases}$$

であるから,

$$\frac{a_n}{b_n} = \sqrt{5} \cdot \frac{(2 + \sqrt{5})^n + (2 - \sqrt{5})^n}{(2 + \sqrt{5})^n - (2 - \sqrt{5})^n}.$$

ここで,  $r = \frac{2 - \sqrt{5}}{2 + \sqrt{5}}$  とおくと,  $r$  は  $|r| < 1$  を満たす定数であるので,  $\lim_{n \rightarrow \infty} r^n = 0$  である. これより,

$$\frac{(2 + \sqrt{5})^n + (2 - \sqrt{5})^n}{(2 + \sqrt{5})^n - (2 - \sqrt{5})^n} = \frac{1 + r^n}{1 - r^n} \rightarrow 1 \quad (n \rightarrow \infty)$$

であるから,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{b_n} = \sqrt{5}.$$

参考 本問は

$$\sqrt{5} = 2.2360679774997896964 \dots$$

の有理数による近似を与えている.

$n$	$a_n$	$b_n$	$\frac{a_n}{b_n}$
1	2	1	2
2	9	4	2.25
3	38	17	2.235294...
4	161	72	2.2361111...
5	682	305	2.23606557377...
6	2889	1292	2.23606811145...
7	12238	5473	2.236067970034...
8	51841	23184	2.236067977915804...

B 3

$k$  を定数とする. 曲線  $y = e^{\sqrt{x}}$  と直線  $y = kx$  が 1 点 P で接しているとき, 次の間に答えよ.

- (1) 曲線  $y = e^{\sqrt{x}}$  の凹凸, 変曲点を調べ, その概形をかけ.
- (2) 定数  $k$  の値と点 P の座標を求めよ.
- (3) 曲線  $y = e^{\sqrt{x}}$  と直線  $y = kx$  および  $y$  軸で囲まれた図形の面積を求めよ. 【2024 佐賀大学】

解説  $f(x) = e^{\sqrt{x}}$  とおく. この  $f(x)$  の定義域は  $x \geq 0$  である.

(1)  $x > 0$  において,

$$f'(x) = e^{\sqrt{x}} \cdot (\sqrt{x})' = e^{\sqrt{x}} \cdot \frac{1}{2\sqrt{x}} = \frac{e^{\sqrt{x}}}{2\sqrt{x}}$$

であり,

$$\begin{aligned} f''(x) &= \frac{1}{2} (e^{\sqrt{x}})' \cdot \frac{1}{\sqrt{x}} + \frac{1}{2} e^{\sqrt{x}} \cdot \left( \frac{1}{\sqrt{x}} \right)' \\ &= \frac{1}{2\sqrt{x}} \cdot \frac{e^{\sqrt{x}}}{2\sqrt{x}} + \frac{1}{2} e^{\sqrt{x}} \cdot \left( -\frac{1}{2} x^{-\frac{3}{2}} \right) \\ &= \frac{e^{\sqrt{x}}}{4x} - \frac{e^{\sqrt{x}}}{4x\sqrt{x}} = \frac{(\sqrt{x} - 1)e^{\sqrt{x}}}{4x\sqrt{x}}. \end{aligned}$$

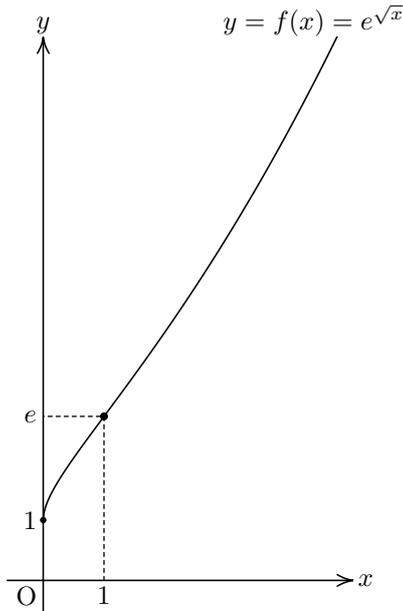
これより,  $f(x)$  の増減と曲線  $y = f(x)$  の凹凸は次のようになる.

$x$	0	...	1	...
$f'(x)$		+	+	+
$f''(x)$		-	0	+
$f(x)$	1	↗	e	↗

したがって、変曲点の座標は

$$(1, e)$$

であり、 $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = +\infty$ により、曲線  $y = f(x)$  の概形は次図のようになる。



(2) 点 P の  $x$  座標を  $p$  とおく.  $p > 0$  である. 条件により,

$$\begin{cases} f(p) = kp, \\ f'(p) = k \end{cases} \quad \text{すなわち} \quad \begin{cases} e^{\sqrt{p}} = kp, & \dots \textcircled{1} \\ \frac{e^{\sqrt{p}}}{2\sqrt{p}} = k & \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

$k > 0$  であり, ①, ② より,

$$\frac{kp}{2\sqrt{p}} = k$$

であるから,

$$\frac{p}{2\sqrt{p}} = 1.$$

$$\sqrt{p} = 2.$$

$$\therefore p = 4.$$

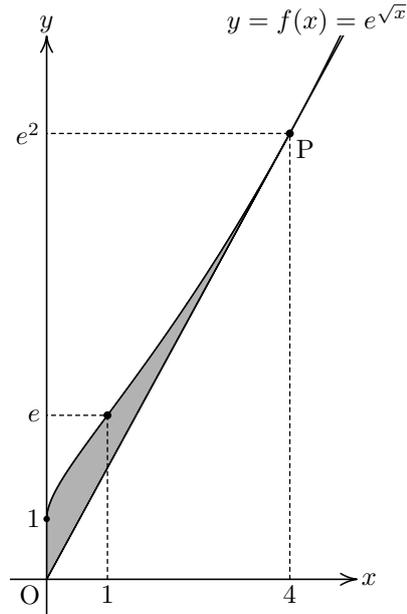
これより, 点 P の座標は

$$P(4, e^2)$$

であり,

$$k = \frac{e^2}{4}.$$

(3) 求める面積を  $S$  とすると,  $S$  は次図の灰色部分の面積である.



$$S = \int_0^4 e^{\sqrt{x}} dx - \frac{1}{2} \cdot 4 \cdot e^2.$$

ここで, 第1項の積分について,  $\sqrt{x} = t$  とおく置換積分を行うと,  $x = t^2$  より  $dx = 2t dt$  より,

$$\int_0^4 e^{\sqrt{x}} dx = \int_0^2 e^t 2t dt = [2(t-1)e^t]_0^2 = 2e^2 + 2.$$

$$\therefore S = (2e^2 + 2) - 2e^2 = 2.$$

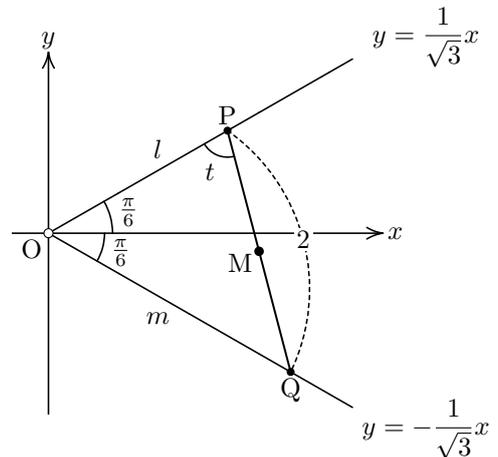
**B 4**

原点を  $O$  とする座標平面において, 直線  $y = \frac{1}{\sqrt{3}}x$  の  $x > 0$  の部分を  $l$ , 直線  $y = -\frac{1}{\sqrt{3}}x$  の  $x > 0$  の部分を  $m$  とする. 点  $P$  は  $l$  上を, 点  $Q$  は  $m$  上を,  $PQ = 2$  を満たしながら動くとする.

(1)  $\angle OPQ = t$  とするとき,  $P, Q$  の座標を  $t$  を用いて表せ.

(2) 線分  $PQ$  の中点  $M$  の軌跡を求め, 座標平面上に図示せよ. 【2024 信州大学】

**解説**



(1)  $OP = p$ ,  $OQ = q$  とおく. 三角形  $OPQ$  で正弦定理から,

$$\frac{2}{\sin \frac{\pi}{3}} = \frac{q}{\sin t} = \frac{p}{\sin \left( \frac{2}{3}\pi - t \right)}.$$

$$\therefore p = \frac{4}{\sqrt{3}} \sin \left( \frac{2}{3}\pi - t \right), \quad q = \frac{4}{\sqrt{3}} \sin t.$$

これより,  $P$  の座標は

$$P \left( p \cos \frac{\pi}{6}, p \sin \frac{\pi}{6} \right)$$

すなわち

$$P \left( \sin t + \sqrt{3} \cos t, \frac{1}{\sqrt{3}} \sin t + \cos t \right).$$

$Q$  の座標は

$$Q \left( q \cos \frac{\pi}{6}, -q \sin \frac{\pi}{6} \right)$$

すなわち

$$Q \left( 2 \sin t, -\frac{2}{\sqrt{3}} \sin t \right).$$

(2) (1) より, 線分  $PQ$  の中点  $M$  の座標は

$$M \left( \frac{\sin t + \sqrt{3} \cos t + 2 \sin t}{2}, \frac{\frac{1}{\sqrt{3}} \sin t + \cos t - \frac{2}{\sqrt{3}} \sin t}{2} \right)$$

すなわち

$$M \left( \sqrt{3} \cos \left( \frac{\pi}{3} - t \right), \frac{1}{\sqrt{3}} \sin \left( \frac{\pi}{3} - t \right) \right).$$

$t$  は  $0 < t < \frac{2}{3}\pi$  を変化するので,  $\frac{\pi}{3} - t$  は  $\frac{\pi}{3}$  から  $-\frac{\pi}{3}$  を動く.

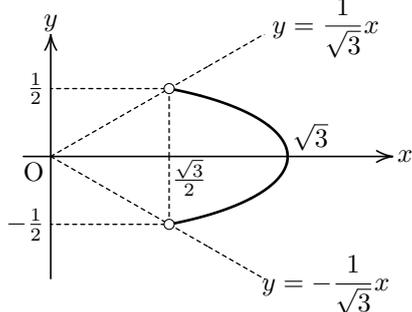
したがって,  $t$  が  $0 < t < \frac{2}{3}\pi$  を変化するとき, 点

$M$  は楕円  $\frac{x^2}{3} + 3y^2 = 1$  上を, 点  $\left( \frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{1}{2} \right)$  から

$\left( \frac{\sqrt{3}}{2}, -\frac{1}{2} \right)$  まで時計回りに動く. これより,  $M$  の軌跡は

$$\text{楕円 } \frac{x^2}{3} + 3y^2 = 1 \text{ の } x > \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ の部分}$$

であり, 図示すると, 次図の太線部分となる.



**B 5**

自然数  $n$  に対して, 関数  $f_n(x)$  を

$$f_n(x) = 1 - \frac{1}{2}e^{nx} + \cos \frac{x}{3} \quad (x \geq 0)$$

で定める.

(1) 方程式  $f_n(x) = 0$  は, ただ 1 つの実数解をもつことを示せ.

(2) (1) における実数解を  $a_n$  とおくととき, 極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$  を求めよ.

(3) 極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} na_n$  を求めよ. 【2024 大阪大学】

解説

(1)

$$\begin{aligned} f_n'(x) &= -\frac{n}{2}e^{nx} - \frac{1}{3} \sin \frac{x}{3} \\ &\leq -\frac{n}{2} \cdot e^0 - \frac{1}{3} \cdot (-1) = \frac{2-3n}{6} < 0 \end{aligned}$$

より,  $x \geq 0$  において  $f_n(x)$  は単調減少. さらに,  $f_n(0) = \frac{3}{2} > 0$  であり,

$$f_n(x) \leq 2 - \frac{1}{2}e^{nx} \text{ および } \lim_{x \rightarrow \infty} \left( 2 - \frac{1}{2}e^{nx} \right) = -\infty$$

より,  $\lim_{x \rightarrow \infty} f_n(x) = -\infty$  ゆえ,  $f_n(x) = 0$  ( $x \geq 0$ ) はただ 1 つの実数解をもつ. ■

(2)  $a_n$  の定義により,

$$1 - \frac{1}{2}e^{na_n} + \cos \frac{a_n}{3} = 0, \quad a_n \geq 0.$$

$$\therefore e^{na_n} = 2 \left( 1 + \cos \frac{a_n}{3} \right). \quad \dots (*)$$

(\*) より,  $e^{na_n} \leq 4$  が成り立つので,

$$0 \leq na_n \leq \log 4.$$

$$\therefore 0 \leq a_n \leq \frac{\log 4}{n}.$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log 4}{n} = 0$  により, はさみうちの原理から,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 0.$$

(3) (\*) より,

$$na_n = \log \left\{ 2 \left( 1 + \cos \frac{a_n}{3} \right) \right\}$$

であり, (2) の結果から,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} na_n = \log \{ 2 \times (1 + \cos 0) \} = \log 4.$$